

21 世紀にはばたく子どもたちのために

～ 続・家庭教育を見なおす～

提 言

平成15年3月

富 山 経 済 同 友 会

教育問題委員会

2 1世紀にはばたく子どもたちのために

～ 続・家庭教育を見なおす～

1 教育問題に対するこれまでの取り組み

富山経済同友会では、平成10年度に教育問題委員会（第一次）を設置して以降、具体的な実践活動をとおして、教育問題に対する積極的な取り組みを継続している。

第一次の委員会では、「行動する同友会」として実践することを前提に提言を行ったが、今次の委員会（第二次）では、第一次委員会が行った提言を実践することを中心に活動を行ってきた。

(1) 第一次教育問題委員会提言の概要

【基本認識】

学校でのいじめ、登校拒否、学級（校）崩壊、家庭内暴力などの憂慮すべき事態に対し、父親が仕事優先で教育が母親任せになっていること、価値観の多様化などの社会の変化により、親自身がすでに倫理観を喪失していること等をその原因として捉え、「しつけ・道徳・倫理観の醸成」など、いわゆる「学力」以前の家庭教育を見直すことが大切。

【内容】

家庭教育を考えるフォーラムの開催

会員企業の従業員やその子どもたち及び地域住民を対象に、外部講師による講演や親同士の意見交換などを通じて「父親・母親」を再認識する。

課外授業講師の派遣

会員が課外授業の講師として生徒に授業を行い、人生の先輩としての生き方や考え方を生徒に伝えるとともに、親の仕事の一端を知らせる。

地域コミュニティー支援

企業の親子見学会の開催や地元イベントへの企業用地の開放を通じて、地域コミュニティーの活性化を図り、地域全体で子どもたちやその親を育てる意識を高める。

交流勉強会の実施

- ・ P T A や学校評議員との交流を通じて、家庭教育において経済界ができることを発見する場を持ちたい。
- ・ 県・市町村教育委員会や学校長、教職員など教育関係者との意見交換を

行いたい。

(2) 提言実践の状況

「家庭教育を見なおすフォーラム」の開催（別紙 1 参照）

平成 12 年度 3 回

平成 13 年度 1 回

平成 14 年度 1 回

課外授業講師派遣制度の創設（別紙 2 参照）

平成 13 年度 派遣制度を創設、講師名簿を作成
6 校へ 11 名を派遣

平成 14 年度 5 校へ 7 名を派遣

地域コミュニティー支援

企業施設活用などの要望がなく、実施できなかった。

交流勉強会の実施（別紙 3 参照）

平成 12 年度 高等学校 P T A 指導者研修会へ講師を派遣

平成 13 年度 高等学校 P T A 連合会シンポジウムへパネリストを派遣
非行防止シンポジウムへパネリストを派遣

平成 14 年度 福光町立福光東部小学校職員研修へ講師を派遣
高岡市立横田小学校職員研修へ講師を派遣

「一日県教育委員会」への発言者の派遣（砺波地区、富山地区）

小中学校・県立学校新任教頭研修へ講師を派遣

2 実践の評価と総括

「家庭教育を見なおすフォーラム」の開催

フォーラムの形式は、講演とパネルディスカッションを組み合わせたものが多かった。また、講師、パネリストには、当委員会正副委員長・アドバイザーが積極的に参加したほか、教育関係者、少年警察補導員、小児科医といった多彩な分野から参加していただいた。いずれのフォーラムにおいても、親子と一緒に食事をする、雑談するなど家族がふれあうことの大切さ、家庭におけるしつけの大切さ、家庭における父親の役割の大切さなどについて話し合われた。また、質疑の時間では、会場からも多くの質問や意見が寄せられ、参加者の関心の高さが窺われた。

課外授業講師派遣制度

授業内容は、学校と講師の協議にゆだねているが、「人生の先輩が語る」というスタンスのものが多かった。

課外授業を受けた生徒、学校関係者からはよい評価をいただいている。生徒の感想文からは、一般的に「世の中の仕事」について理解を深めるだけでなく、「夢を持って努力することの大切さ」、「生きることの意味」等についても考える機会ともなったことが窺える。

また、講師を務めた会員からも「大学卒業後直ぐに教壇に立ち、実社会での経験がない(少ない)先生が多い中、われわれが体験に基づき生徒に語ることは、大変意味がある」との感想も寄せられている。

平成 11 年度から始まった中学校における「14 歳の挑戦」や高校における「インターンシップ制度」と相まって、生徒が社会のことを知る貴重な手がかりになったものと思われる。

その一方で、小学校への派遣実績がなかった。これは、小学校では中学校や高等学校ほど「職業」や「生き方」を学習する機会が少ないためと思われる。むしろ、小学校からの要望は、総合的学習の中で、例えば環境問題や地域の文化について話してほしいとか、PTAの講座で講演してほしいというもので、われわれが制度発足当初想定していたものとは異なる要望であったため対応できなかったものである。これについては、今後の課題となった。

地域コミュニティー支援

提言の趣旨は、地域コミュニティー活性化により地域全体で子どもを育てるというものであり、このために地元企業の施設等を活用できないかというものであるが、社会経済の変化の中で生産現場も変容し、子どもたちにとって「見ておもしろい」生産現場が少なくなっていること、施設を活用したいとの要望がなかったこと等の事情もあり、結果として実施できなかった。

交流勉強会

教育界からの求めに応じる形で、シンポジウム等に個別に講師等を派遣してきた。特に平成 14 年度は、学校単位で先生を対象にした講演依頼が 2 件あり、講師を派遣したが、先生の感想文からは、経済の動きなど外の世界に触れる機会となっただけでなく、企業経営者が語る社員教育の話から学校教育のヒントを得る機会となったことが窺われる。また、企業経営者にとっても学校現場の生の声を聞くまたとない機会であった。

また、平成 14 年度は、県の新規事業として「一日県教育委員会」が県下

4 会場で開催され、うち 2 会場に当会から出席し、意見を述べた。こうした機会は、前回の提言において当会が求めていた教育関係者との交流・意見交換の場となるものであり、また、集まった県民の前で当会の教育への考え方を発表する機会ともなるものであり、誠に有意義な機会であった。今後ともこうした機会を持っていただくよう、関係機関に要望したい。

3 提言

以上の総括を踏まえ、第 2 次教育問題委員会としては、第 1 次委員会が取りまとめた提言の基本路線を引き継ぎつつ、次のとおり活動を充実させていきたい。

家庭でのふれあいの機会の創出

会員が属する企業において、従業員が家庭において家族とのふれあいが深まるよう、次のような取り組みが行われるよう働きかける。

- a 従業員やその配偶者の出産に際し、早い時期から子どもとの交流が深まるよう低年齢児用絵本を贈ること。()

子どもは、乳幼児期からの親の深い愛情によって人への信頼感、豊かな情操、他人に対するおもいやり等の基本的な倫理観が醸成されていくといわれている。また、子供とどう接していいかわからない親が増え、児童虐待の原因の一つともいわれている。

一方、読書は豊かな情操の涵養に効果があり、小さい頃から本に親しむ習慣を作ること大切である。

こうしたことから、会員自らその従業員等の子の出産に際し、絵本を贈ることによって、親が子どもに絵本を読み聞かせる機会をつくり、親子のふれあいを深めようとするもの。

- b 子どもの誕生日には、従業員に残業をさせない、又は夜勤を免除するなど、子どもと一緒に誕生日を祝うことができるようにすること。
- c 父親である従業員が積極的に育児に参加できるよう気兼ねなくタイムリーに休暇を請求し、取得できるような職場環境を整備すること。

家庭教育を見なおすフォーラム

引き続き、会員が属する企業の従業員を対象にフォーラムを開催する。

今後は、これまで開催してきた成果を踏まえ、会員にフォーラム開催の意義を十分理解していただけるよう啓発に努め、会員が属する企業において、進んでフォーラムを開催していただけるようにしていきたい。

課外授業講師派遣制度

引き続き、課外授業講師派遣を実施する。

また、制度をよりよいものとするため、学校関係者から改善点、要望などの意見を伺う機会を設けていきたい。

交流勉強会の実施

引き続き、教育関係者を対象とした研修会等に積極的に参加する。

今後、学校週5日制の実施により夏休みにおける先生への研修が増えることに伴いこのような交流の機会も増えることが予想される。このため、当会としても積極的に教育関係者との交流の場を持ち、理解を深めるとともに、会員自ら教育のために何ができるかの「気づき」の機会とすべきである。

研修機会の提供

先生が豊富な実社会経験を積むことができるよう県教育委員会が行っている「社会体験研修プログラム（ ）」において、積極的に研修の場が提供できるよう会員の属する企業に働きかける。

現在の社会体験研修プログラム

13年次研修：経験13年目の先生が、コース別に連続3日間の体験を行うもの。（産業体験、ボランティア体験、異校種体験、特別体験の4コースがある。）
社会に学ぶ先生の挑戦：希望する先生が、連続5日間の体験研修を行うもの。

4 おわりに

昭和22年に制定され50年余を経た教育基本法は、21世紀を迎えたいま、新しい時代にふさわしいその在り方が模索されている。先ごろとりまとめられた中央教育審議会の答申によれば、「教育における家庭の役割」や「学校・家庭・地域社会の連携・協力」について新たに規定を置くよう求めているところであるが、かねて「家庭教育の見なおし」を求めてきた当会とすれば、まさに「我が意を得たり」の感が強く、今後この点に関し答申の意を体して立法化の作業が進むことを期待する。

【付言】 新しい学習指導要領について

(1) 教育環境の変化

国においては、学校でのいじめ、登校拒否、学級（校）崩壊、家庭内暴力などの憂慮すべき事態の原因の一端が、いわゆる「詰め込み教育」にあるとの認識から、いわゆる「ゆとり教育」を志向する新しい学習指導要領が定められ、小中学校では平成14年度から全面実施、高等学校においても平成15年度以降順次実施されることとなった。また、これに合わせ平成14年度から「学校週5日制」が実施されている。

新学習指導要領のねらいとして、次の4点が上げられている。

- ・ 豊かな人間性や社会性、国際社会に生きる日本人としての自覚の育成
- ・ 自ら学び、自ら考える力の育成
- ・ (完全週5日制のもと)ゆとりある教育活動を展開する中で、基礎・基本の確実な定着を図り、個性を生かす教育の充実
- ・ 各学校が創意工夫を生かして特色ある教育、特色ある学校づくりを推進

(2) 当委員会の考え方

この新しい学習指導要領については、少なくともそのねらいとするところは、第1次教育問題委員会が提言を取りまとめた際の「しつけ・道徳・倫理観の醸成」という当会のねらいと共通するものがあり、評価できる。

しかしながら、富山県学校週5日制連絡会議と富山県子ども元気活動支援推進協議会が学校週5日制の実施に関し県下の小・中・高校生に対して行ったアンケート結果によれば、制度導入以降の日常生活の変化として、「家族と一緒にいる時間が増えた」という声がある一方で「朝ゆっくり寝ていることができるようになった」とするものも多く、新学習指導要領のねらいが必ずしも、生かされているとは言い難い状況にある。

また、高等学校においては、一部の学校で土曜日の補習が行われるなど教育の機会均等が失われる結果となりつつある。

更に、近年、児童・生徒の学力が低下しているのではないかと不安が広がっている。文部科学省は、平成14年に小・中学生を対象に行った学力調査や国際比較調査の結果を基に「学習状況はおおむね良好だ」としつつも、理科など一部で「課題がある」と学力が低下傾向にあることも認めている。

資源のない日本が21世紀においても引き続き国際社会において確固たる地位を維持していくためには、優れた人材を養成していくことが必要であり、また、企業経営者にとっても優秀な人材を確保していくことは企業経営上不可欠である。こうした意味で児童・生徒の学力の低下は誠に憂慮すべき事態である。

教育界に対しては、新学習指導要領のねらいを生かしつつも、学力が維持、向上していくよう総力を挙げて取り組まれるよう要望したい。

また、父兄に対しては、学校週5日制の趣旨に鑑み、家族一緒に家の仕事をしたり、共通の話題について話し合うなど子どもが土曜日及び日曜日を有意義に過ごすことができるよう、格段の配慮をお願いしたい。

以上

「家庭教育を見なおすフォーラム」の開催実績

	日時・場所	講 師	主な参加対象者
第1回	H12.11.21(火) 17:00～18:30 富山問屋センター 流通会館中ホール	パネルディスカッション パネリスト：林 湊子氏 (富山福祉教育・ボランティア学習研究会会長) パネリスト：高野佳子氏 (富山警察署生活安全課係長少年警察補導員) パネリスト：黒田 昭 (富山経済同友会教育問題委員会アドバイザー) コーディネーター：谷道 昭 (富山経済同友会教育問題委員会委員長)	富山問屋センター内 企業従業員 約 50 名
第2回	H13.1.30(火) 17:30～19:00 阪神化成工業(株) 6階ホール	講演「家庭教育を見なおす」 講師：谷道 昭 (富山経済同友会教育問題委員会委員長) 講演「大きな耳と小さな口」 講師：高野佳子氏 (富山警察署生活安全課係長少年警察補導員) パネルディスカッション パネリスト：高野佳子氏 パネリスト：谷道 昭 コーディネーター：高田順一 (富山経済同友会教育問題委員会副委員長)	阪神化成グループ企 業従業員 約 140 名
第3回	H13.2.16(金) 18:00～19:30 サンシップとやま 701 研修室	講演「知力と心」 講師：小沢伊弘氏 (㈱アイバック社長) パネルディスカッション パネリスト：小沢伊弘氏 パネリスト：谷道 昭 (富山経済同友会教育問題委員会委員長) コーディネーター：林 和夫 (富山経済同友会教育問題委員会副委員長)	会場周辺の会員企業 従業員 約 60 名
第4回	H13.11.20(火) 17:30～19:00 北陸電力(株)本店 2階 021 会議室	講演「家族と子ども」 講師：河田悦子氏 (富山県教育委員会生涯学習室家庭成人教育班長) パネルディスカッション パネリスト：稲垣応顕氏 (富山大学教育学部附属教育実践総合センター講師) パネリスト：林 和夫 (富山経済同友会教育問題委員会副委員長) コーディネーター：河田悦子氏	北陸電力(株)本店、周辺 事業所、関係会社従業 員 約 80 名
第5回	H15.3.24(月) 18:00～19:30 高岡文化ホール 多目的小ホール	講演「家族と子ども」 講師：河田悦子氏 (富山県教育委員会生涯学習室家庭成人教育班長) パネルディスカッション パネリスト：本間一正氏 (富山赤十字病院小児科部長、富山県立乳児院院長) パネリスト：林 和夫 (富山経済同友会教育問題委員会副委員長) コーディネーター：河田悦子氏	県西部地区の会員企 業の従業員 約 160 名

課外授業講師 派遣状況一覧

	年月日	学校名	対象	講師名	内容
1	H14.1.31(木)	舟橋村立 舟橋中学校	1年(27名)	林 和夫	人生の先輩に聴く集い(14:30/15:20) 「"学ぶ"について考える」
			2年(28名)	黒田 昭	人生の先輩に聴く集い(14:30/15:20) 「産業社会の状況と学校生活のあり方について」
			3年(21名)	谷道 昭	人生の先輩に聴く集い(14:30/15:20) 「外国人とのつきあいについて考える」
2	H14.2.2(土)	富山県立 魚津高等学校	2年(237名)	中尾 哲雄	「自分探し」をテーマとする講演(13:00/14:00) 「夢をもて」
3	H14.2.15(金)	富山県立 桜井高等学校	国際コース1年、2年 (66名)	酒井 清	国際コース生徒に対する講話(13:30/15:10) 「国際交流について」
4	H14.2.16(土)	富山市立 北部中学校	1年(32名)	村 雄一郎	1年生に対する職業紹介(9:55/10:30)
5	H14.2.18(月)	富山県立 富山養護学校	高等部(63名)、 保護者	飴 久晴	社会自立をめざす進路学習会における講話 (11:00/11:55) 「生きる喜び、働く喜び」
6	H14.2.22(金)	富山市立 岩瀬中学校	1年4学級(156名)	大場 輝喜	1年生に対する職業紹介(13:50/14:25)
				牧田 和樹	1年生に対する職業紹介(13:50/14:25)
				池田 安隆	1年生に対する職業紹介(14:35/15:10)
				横山 哲夫	1年生に対する職業紹介(13:50/14:25)
7	H14.9.27(木)	富山県立 中央農業高等学校	農業科、 園芸科(栽培環境) (77名)	高井 芳樹	特別講演会(10:40~11:40) 「富山県の環境保全型コメ農業について」
8	H14.10.5(土)	富山県立 魚津高等学校	2年(239名)	米田 祐康	進路探訪・全体会(9:00~10:15) 「21世紀はバイオの世紀 - これから進路を決める人に」
9	H14.11.13(水)	富山県立 砺波高等学校	文系志望の1年、2年 (約160名)	新田 八朗	文系・理系別講演会(14:40~15:40) 「パブリック・マインド」
10	H14.11.27(水)	富山県立 上市高等学校	総合学科(23名)	飴 久晴	教科「産業社会と人間」の講演会(13:15~14:30) 「生きる事・働くこと」
11	H15.1.31(木)	舟橋村立 舟橋中学校	1年(26名)	片山 浄見	人生の先輩に聴く集い(14:45~15:35) 「私の夢、そして日本の未来は」
			2年(29名)	土地 豊隆	人生の先輩に聴く集い(14:45~15:35) 「可能性」
			3年(28名)	久郷 慎治	人生の先輩に聴く集い(14:45~15:35) 「植物はおもしろい」

教育関係者との交流実績

	日 時	場 所	交流の内容	派遣者
1	H12.6.21(水) 10:00～16:00	高志会館	富山県高等学校 PTA 指導者研修会 講演講師	黒田 昭
2	H13.10.23(火) 15:30～17:00	高志会館	富山県高等学校 P T A 大会 シンポジウムパネリスト	林 和夫
3	H13.11.4(日) 13:30～16:00	サンシップとやま	少年非行防止シンポジウム パネリスト	池田 徳郎
4	H14.5.31(金) 10:00～12:00	ホテル ニチマ倶楽部	一日県教育委員会 発言者	木村 準
5	H14.7.23(火) 9:00～10:30	福光町立 福光東部小学校	教員の資質向上のための校内研修会 講師	竹田雄一郎
6	H14.7.30(火) 13:30～15:00	高岡市立 横田小学校	教員の資質向上のための校内研修会 講師	金森 米男
7	H14.8.2(金) 13:30～15:30	富山県民会館	一日県教育委員会 発言者	谷道 昭
8	H14.8.7～8 10:20～12:00	富山県総合教育センター	小中学校・県立学校新任教頭研修 講師	松原 吉隆

教育問題委員会名簿（平成12～14年度）

（五十音順）

区分	氏名	会社名	役職
委員長	谷道 昭	(株)富山コクヨ	代表取締役社長
副委員長	片山 浄見	(株)富山育英センター	代表取締役社長
副委員長	高田 順一	阪神化成工業(株)	代表取締役社長
副委員長	土地 豊隆	(株)ユタカ産業	代表取締役
副委員長	林 和夫	朝日建設(株)	代表取締役社長
アドバイザー	黒田 昭	(株)三田商会	代表取締役社長
委員	飴 久晴	コーセル(株)	取締役会長
委員	池田 恒彦	立山製紙(株)	代表取締役社長
委員	池田 徳郎	富山いすゞ自動車(株)	代表取締役
委員	池田 安隆	(株)池田屋安兵衛商店	代表取締役
委員	石動 勇	石動コーキング(株)	代表取締役
委員	井上 浩	(株)井上誠昌堂	取締役社長
委員	宇於崎 弘	伏木海陸運送(株)	取締役社長補佐
委員	江守 淳一	(株)江守	代表取締役
委員	太田 興作	(株)総務部	代表取締役
委員	大場 輝喜	日本銀行	富山事務所長
委員	小川 肇	協和紙工業(株)	代表取締役社長
委員	笠間 孝治	東急観光(株)	富山支店長
委員	金井 昌一	富山電気ビルディング(株)	取締役社長
委員	金森 俊樹	金剛化学(株)	代表取締役
委員	亀谷 義光	住吉工業(株)	取締役会長
委員	川田 忠樹	川田工業(株)	代表取締役会長
委員	木村 準	(株)日本抵抗器製作所	代表取締役社長
委員	楠 行雄	(株)タイヨーパッケージ	取締役会長
委員	黒川 勲	(有)森本鉄工所	取締役社長
委員	桑名 博勝	富山地方鉄道(株)	代表取締役社長
委員	酒井 正人	富士商事(株)	代表取締役社長
委員	酒井 博	サカマ産業(株)	代表取締役社長
委員	佐々木 千佳子	税理士法人拓新	代表社員
委員	佐藤 誠	みずほアセット信託銀行(株)	富山支店長
委員	三川 勝之	加越能鉄道(株)	代表取締役社長
委員	清水 恵大	北陸興和産業(株)	代表取締役社長
委員	須垣 純夫	富山スガキ(株)	代表取締役社長
委員	杉野 芳宏	(株)スギノマシン	代表取締役会長
委員	高岸 和男	(有)タカギシ	代表取締役
委員	武内 繁和	武内プレス工業(株)	代表取締役社長
委員	竹田 肇	北日本物産(株)	代表取締役会長
委員	田中 精密	田中精密工業(株)	代表取締役社長
委員	田邊 嶽之	(有)富山埠頭	代表取締役
委員	谷村 昌義	(株)スキル	代表取締役
委員	玉井 浩	(株)神戸製鋼所	北陸支店長
委員	為井 光章	為井塗装(株)	代表取締役
委員	釣谷 宏行	シーケー金属(株)	代表取締役社長
委員	永田 義邦	(財)北陸予防医学協会	理事長
委員	中村 厚	中村会計事務所	所長
委員	野崎 勉	北電情報システムサービス(株)	代表取締役社長
委員	長谷 正克	北日本印刷(株)	代表取締役社長
委員	馬場 博	東海東京証券(株)	富山支店長
委員	藤谷 和彦	(株)オスカーホーム	代表取締役会長
委員	榎田 敬次郎	(株)榎田酒造店	代表取締役社長
委員	松井 元太郎	富山信用金庫	理事長
委員	松井 巖	関電ウエルビー(株)	取締役総務部長
委員	村本 武史	高岡商工会議所	専務理事
委員	森藤 和彦	三菱レイヨン(株)	執行役員富山事業所長
委員	森本 芳夫	北陸電力(株)	相談役
委員	八代 健一郎	日産化学工業(株)	取締役富山工場長
委員	山口 清隆	チューゲキ(株)	代表取締役社長
委員	山口 昌広	北酸(株)	代表取締役社長
委員	山下 和夫	三谷産業(株)	情報システム事業部富山支店長
委員	要明 英雄	立山アルミニウム工業(株)	代表取締役社長
委員	横山 哲夫	北日本放送(株)	代表取締役社長
委員	吉岡 隆一郎	(株)文苑堂書店	代表取締役社長
委員	吉野 弘人	北陸電気工事(株)	代表取締役社長
委員	米田 祐康	金剛薬品(株)	代表取締役社長
委員	綿貫 勝介	トナミ運輸(株)	専務取締役

（以上 65名）